

農水省跡地利用施設建設基本計画策定委員会（第6回）会議要録

- 日 時 平成17年1月31日（月） 午後6時30分～9時
- 場 所 武蔵野商工会館市民会議室
- 出席者 古田土委員長・永並副委員長・細野委員・清水委員・
鈴木委員・川原田委員・山上委員・檜山委員・
藤井委員・小森委員・塩沢委員・南條委員・
その他（幹事会委員・事務局）

1．開会

【委員長】第6回農水省跡地利用施設建設基本計画策定委員会を開催する。

【事務局】資料確認

事前送付

- ・ 第5回策定委員会会議要録（案）
- ・ 市民意見、市民意見要約版
- ・ 最終報告書の課題

本日の配布

- ・ 市民意見追加分（38番）
- ・ 建築設計案
- ・ 公園の計画案

2．議事

（1）第5回策定委員会会議要録の確認

【委員長】会議の要録について、訂正等する部分があれば、お願いしたい。

【各委員】なし。

（2）中間まとめの市民意見について

【事務局】38件寄せられた。緑や公園についての意見が多かったが、似通った意見であった。それらについては、本日の委員会で、事務局から方向性を説明する。その他の意見についても、本日議論をしたい。また、要約した意見に関してはホームページに載せていく。

【委員長】要約をホームページに載せることに関して、意見はあるか。

【各委員】異議なし。

【事務局】一番多かった意見は、環境についてだ。中間まとめでは、自然の多様性、緑の環境価値を重視した施設とし、敷地周囲の大木を生かし、可能な限り緑を配置するという方向性を出した。だが、敷地の北側半分を公園とする計画であるが、全てが施設になってしまうという誤解もあったようだ。基本的に

は、引き続き緑、環境に十分配慮をして計画を進めていく方針は変わらない。

2 点目として建物の高さ、規模に対する意見が多かった。地上 4 階地下 3 階を基本に、利用上のフレキシビリティ、空間の確保を考え、9,600m²をマックスとする。高さに関しても、西側の高木、武蔵境の駅舎とバランスのとれた高さにしていく。

3 点目として意見交換会、あるいは市民委員会の設置に関しての意見があった。今後、施設の使用方法、附帯設備に関して、市民の意見を聞いていく方向で考えている。

また、建物のコスト等に関しても、数件意見があった。イニシャルコスト、ランニングコストに十分配慮して事業を進めていく。

【委員】市民意見を読んで感じたことは、この委員会や市の考え方がうまく伝わっていないという点だ。例えば、地上 4 階地下 3 階。検討するうちに変わっていくのは、ある程度当然だと思うが、そういったプロセスがうまく市民に伝わるやり方があったほうが良い。

【事務局】今までの議会での経緯を含め、うまく説明し切れていない点もある。また、今回の中間のまとめは、時間的な制約もあり、施設を中心に記述をした。公園部分の検討についてはあまり触れていない。今後、公園部分の中身、あるいは公園部分とのつながりをきっちり書き込むことによって、説明をしていく。

【委員】できるだけ、情報の流し方を工夫してもらいたい。今後、市民意見を直接的に聞く予定はあるか。

【事務局】今後、基本設計からさらに詳細設計へと入る段階で、市民に呼びかけをして、意見交換をする場をつくっていききたい。方法については、各段階によって、一番効率的、効果的な手法をとっていく。

【委員】現在、策定委員会が何をやっているか、どういうスタンスか、ということとは市民に伝わっているか。

【事務局】委員会会議要録をホームページに載せている。また、その際の資料を市役所 2 階の市政資料コーナーで公開している。中間まとめは、ホームページで公開しているほか、市政センター、コミュニティセンター、市民会館などで配布している。

(3) 最終報告書の課題について

【事務局】「最終報告書の課題」について下記のとおり説明

■ 建築計画のまとめ

1 「環境に配慮した施設づくり」

○「100 年建築」; 建物を「世代を超えて使い続けられる価値ある社会的資産」としてとらえ、耐久性、耐震性に重きを置いて建築をしていく。また、イニシャルコスト、ランニングコストも重要視していく。

○「自然と調和を図る」；西側の既存の樹木を残し、屋上緑化、接道緑化、公園との一体的整備を進める。

○「自然を利用した熱環境づくり」；エネルギーを使わないで、いかに自然環境を利用していくかを検討する。

○「市民に愛される建築」；「利用上のフレキシビリティ」、「ゆとりある空間の確保」がポイントとなっている。未永く市民に使い続けられることにより、「市民に愛される建築」になりうる。

2 「建築家による施設デザイン」

時代とともに風合いを持つ素材、歴史を刻んでいくような建築を目指す。内観に関しては、自然素材を用いた快適なインテリア等を検討する。

■公園計画のまとめ

1 境南ふれあい広場公園整備コンセプトについて

○中心市街地活性化基本計画での整備コンセプト；キーワードとして、まちのシンボル、人が集まる広場、あるいは緑豊かなというものをあげた。

○中間まとめでの整備コンセプト；緑や水の配置、イベントのできるスペース、テラスを設置、駅舎との一体化を掲げた。

○緑化環境センターとしての整備のコンセプト；緑豊かな空間、集客できるイベント空間、駅舎・新公共施設の融合地帯という形をキーワードとした。

○緑化環境センターとしての要望；西側の街路樹と一体的な整備、林の中のテラスの設置、中央の広場の芝生化・草地化、市民花壇の設置、指定管理者制度を活用した管理・運営、流れではなくアートの水辺を感じさせる水辺空間、公衆トイレ（倉庫を兼ねた）男・女・だれでもトイレ、防災機能の設置 以上8点。

【委員長】続いて建築及び公園計画について説明を。

【委員】ここ10年くらい、コミュニケーションがネットを介しても成り立つ時代になったが、新しい施設に求められるのは、人と人のリアルな出会い、人と情報のリアルな出会いだ。リアルな出会いをいかに創出していくかというのがこの建物の目的だ。年齢層、趣味にしても、多様な人が、多様な状態のまま集まれる場所を設定していきたい。そのためには、建築は多様なものをそのまま受け入れられるような施設としてデザインしていく。自分の好きな場所を見つれたり、あるいは歩いていくうちに知らない情報に出会ったりする場所にするために、回廊のように歩き回れる施設を考える。ビルディングというタイプではなく、できるだけ全体が立体的な回廊になるというイメージを持って設計をしている。

公園については、中央にイベント等ができるスペースをとり、また道路から建物にアプローチするような回廊をとっている。周囲に高木を植えることによ

り、緑の多い公園というイメージをつくっていく。カフェの前には屋外テラスを設けた。市民ラウンジの前には、緑陰読書スペースとして、木々の下で本を読めるスペースをつくった。水辺スペースは、夏になると子供が水遊びをできるようなスペースを考えていく。環境調整装置としては、木々に散水をして、打ち水効果で周囲の温度を下げるような工夫を考えている。

【委員長】まず建物について、意見はあるか。

【委員】ハコモノという時、従来型イメージで反対する人がいるかもしれないが、様々な機能が入っていて、従来のものとは違う。

【委員】市民意見の中に、誤解もあったという話だが、中間まとめでは、公園に関しての記述がなかったから、と考えて良いのか。

【事務局】それも一つの原因だ。

【委員】そうすると、公園の書き方は重要になる。わかり易く書いてもらいたい。

【委員】公園のイベント等ができるスペースは、どのくらいの広さか。

【委員】1,200㎡ぐらいを考えている。

【委員】広目にこの部分をとっておく必要がある。

【委員長】次に「ユニバーサルデザインの検討」に入っていきたい。

【事務局】「ユニバーサルデザインの検討」について説明

■ユニバーサルデザインの検討

1「基本方針」；障害者、高齢者、子ども、外国人等に分け隔てなく使いやすい施設にする。

2「ハード面の整備」；法的に整備基準と望ましい(厳しい)基準を適用し、クリアしていく。整備項目として、敷地内の通路、駐車場、主要な入り口など誰でも使えるようにする。サイン計画としては、障害者の特性に応じた表示あるいは誘導ができるようにする。当然子ども、外国人にもわかるような工夫をしていく。

3「ソフト面の整備」；誰もが施設を利用できることをサービスの基本としていく。対面朗読室、録音室に関しては使いやすい形で設置していく。

【委員長】次に「効率的な事業手法の検討と総事業費の算出」について

【事務局】「効率的な事業手法の検討と総事業費の算出」について説明

■効率的な事業手法の検討と総事業費の算出

1．総事業費の算出；具体的に人員、あるいはソフトの使い方も含めて総事業費を算出していきたい。使用料収入に関しては、現状では様々な利用パターンを市のほかの施設を参考に考えている。市民・青少年優遇措置に関しても、今後具体的に検討していく。

2．事業手法；この施設は、設計は川原田氏を予定し、維持管理は、指定管理

者制度を用いた管理運営としコストダウンさせるので、現状ではPFIではなく、従来型の建設手法で行う考えだ。総事業費は、最終報告の中に盛り込んでいくつもりだ。今後、幹事会で具体的な検討を積み重ねていく。今日は、総事業費を最終報告に盛り込んでいくことだけを確認したい。

【委員長】この部分は、議会、市民に一番説明をすべきところだ。これを抜きにして最終報告はできない。次に「管理運営方針」以降について。

【事務局】「管理運営方針」、「IT化基本方針」、「選書と人材」について説明

■管理運営方針

管理運営方針に関しては、中間まとめに沿って、最終報告の中ではもう少し詳しく書いていく。

■IT化基本方針

施設の利用状況、イベント情報等のホームページをつくっていく。情報ブラウジングコーナーと武蔵野アーカイブス、映像ブラウジングコーナーで、パソコンを介していろいろな情報を提供し、特徴を出しながら設計していきたい。また、ICチップによる図書の管理を行い、サービスの向上、たとえば休館日の減少などにつなげていきたい。

■選書と人材

選書には、特化した分野に詳しい人材が必要だ。専門知識を有する市民や、民間のノウハウをうまく活用できれば良いと考えている。キュレーター、情報コンシェルジュもソフトの面で重要と考えている。

【委員】図書の分散配置を行う際、どのように管理していくかが課題だ。実際にICチップでどの程度のことができるか、コストがどれくらいか考えないといけない。

【委員】キュレーターは、様々な事に精通しているということだが、一人に全てを期待できない。実際、どのくらい人数が必要かということも問題となってくる。

【委員】キュレーターは、大きな計画などを立てるというイメージではない。

【委員】キュレーターは、日本語に訳すと学芸員ということになるが、美術館で展示の企画をやるイメージでキュレーターとしている。館全体のイベントなど、館全体の企画の構成を立てられるような人がいると、この施設から様々なアピールができる。

【委員】賛成だ。

【委員長】今後の日程について、事務局より説明を。

【事務局】日程説明

次回；2月24日（木） 場所；武蔵野公会堂

3月；3月25日（金） 場所；武蔵野公会堂